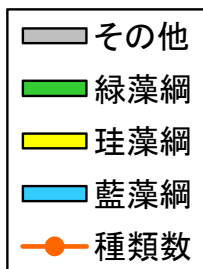
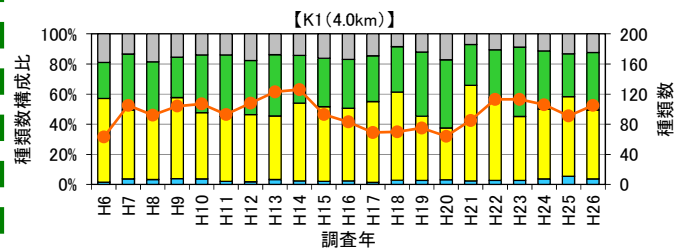


生物の生息・生育状況の変化の評価【植物プランクトン】

■植物プランクトンの種類数の経年変化(2割水深)

- 堰上流域の地点では河口堰運用後に淡水化による種類数が減少。
- 伊勢大橋、長良川大橋、東海大橋、南濃大橋では、平成19年頃から珪藻綱の割合が高い状態で推移している。
- 堰下流域のK1(4.0km)では、調査年によって変動はあるものの、珪藻綱と緑藻綱の占める割合が高い状態に変化は見られない。

堰下流



堰上流

(平成7年7月本格運用開始)

